

## 2024年度卒業式校長挨拶（2025.3.18）

大講堂の前の桜のつぼみもうっすら膨らみ始めました。この春の良き日に、2024年度武蔵高等学校卒業式を挙行了しましたところ、池田康夫学園長、福岡喜正同窓会副会長、並びに多くの親御さんのご出席をいただき、かくも盛大に開催できますことに御礼を申し上げるとともに、心から喜びたいと思います。

第99期の卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。今から6年前、皆さんがこの武蔵に入学することと軌を一にして、私は53年ぶりに母校に戻ってきました。そして、一緒に6年間の時を過ごした思い出深い学年です。その皆さんが、本日武蔵を去っていきます。記念祭や体育祭にも良い思い出がたくさんあります。いい学年でした。その皆さんが、本日をもってこの武蔵を旅立っていくことに、さみしさを禁じ得ません。しかし、卒業式を示すコメントという言葉は「新たな始まり」を意味します。この武蔵を旅立っていく皆さんに、万感の思いを込めて最後のお話をいたします。

皆さんがこの武蔵に入学し過ごした六年間は、世界が大きく変動した日々でした。なんといっても、皆さんが中2に進級したときに広がった新型コロナウイルス。突然の全国一斉休校に始まり、コロナに罹患するのではないかという不安の中で、本当に色々なことがありました。武蔵でいち早く罹患し、入院までしたのはこの私でした。皆さんは大変な中、よく頑張ったと思います。世界に目を転じると、中3の2月にはロシアによるウクライナ侵攻が、さらに高2の秋には中東地域でのパレスチナ・ハマスとイスラエルとの戦争が始まりました。現在、それらの争いの終焉に向け、和平交渉が進んでいるものの、世界のパワーゲームの中、全く予断を許さない状況が続いています。国内に目を転じて、皆さんにとって日本の首相と言えば長期にわたり政権の座についた安倍総理だったと思いますが、皆さんが高1のとき、その安倍総理が、統一教会の問題に絡み銃撃され亡くなるという大きな事件がありました。一方で、失われた20年とも30年とも言われるように、日本経済の低迷が続き、気が付くと世界経済やイノベーションから取り残されており、「日本はオワコン」と揶揄される状況もありました。現在、ようやく長期にわたるデフレから脱却する動きが見えてきていますが、物価上昇に賃金上昇がなかなか追い付かない、あるいは格差の拡大や少子高齢化に伴う深刻な課題が繰り返し指摘されています。

そうした大きな歴史の流れの中で、皆さんは10代をこの武蔵で過ごしてきた。皆さんは、この時代を、この社会をどんな風に思っているのかなあ、感じているのかなあと私は思います。

私もみなさんと同じこの大講堂の席に、1976年3月に座っていました。49年前、

ほぼ50年前です。

その昔の自分と掛け合わせてみると、おそらく、同じ武蔵の中高生。考えていることとか本質的な部分は、ほとんどあの頃と今も変わっていないと私は思います。世界の大きな問題や日々のニュースに関心がないわけではないけれども、そのことよりも、身近な問題、自分の将来や受験のことについて悩み、自分の性格や容貌についても悩み、同時に仲間と時にわるふざけもしながら色々な話をし、そして誰かを好きになる。見栄をはって自信があるようで、そのくせ不安も大きく傷つくのがこわい。何にでもなれる可能性があるが、まだ何者でもない。でも何かやりたいと思っている。やらなければならないと思っている。悩みながら前を向こうとして歩いている。そのへんは変わらないんだと私は思います。

一方で、武蔵生を取り巻いていた社会については、私の過ごしたあの頃と皆さんが過ごしたこの6年とでは、だいぶ変わってきていると思います。

特に、情報伝達手段や知識獲得手段とそれによる社会的影響の大きさは明らかに変わりました。人と人がつながる手段は、私の武蔵時代は電話でした。記念祭で知り合った女子高生と話すには電話しかありません。まずお母さんと話す。場合によってはお父さんと話す。そのハードルをドキドキしながら超えていかなければなりませんでした。それはそれでよい体験だったと思います。でも今やスマホやネットを通じて、自由につながれる。しかも匿名で。皆さんが武蔵で過ごした6年間は、その変化が日々加速している6年間だったように思います。

昔はトランプ大統領とゼレンスキー大統領とのやり取りなどはテレビや新聞で見るとはなかったのですが、今はその動画も自由に見られるし、自由に切り取って拡散することもできる時代です。知識獲得の方法も、大きく様変わりをしてきました。昔は、何か調べるときに、図書館にある百科事典を手掛かりに、アナログ的に一生懸命調べたものです。今や、ネットで検索すれば容易に情報を獲得することができるだけでなく、生成AIがユーザーの知りたい情報を取捨選択して送ってきます。

さらに言うならば、SNSでの情報が、それがフェイクかどうか確認できないままに、政治や社会を大きく右から左へ、左から右へと横揺れさせてしまう事例も、ここ数年の間に目撃するようになりました。皆さんにとってネットやスマホ、SNSを使うことは当たり前になってきましたが、そのことの良さもあれば、失っていることもあると私は思います。

そうした空気、時代感の中で、まぎれもなく皆さんはこの武蔵で10代を過ごしてきました。そして、そんな皆さんが今日武蔵から飛び出します。人生100年時代。高校卒業

を機に、長い長い本格的な人生が始まるでしょう。50年後の未来はきっと、50年前と今が変わっているように、今とは大きく変わっているでしょう。

でも確かなことは二つある。一つは人間の本質はやっぱり変わるものでない。みんな悩みながら歩いている。前を向こうとしている。そしてもう一つは、社会は一気に変わるわけではない。でも少しずつ変わっていく。どう変わっていくか、変化の本質を見通す大局観を持ちながら、足元の様々な問題と格闘していくことが重要だと思います。

そこで、皆さんが武蔵を旅立つにあたり、これからの時代を生きていくうえで、武蔵での学びを踏まえ、皆さんに聞きたいことを最後に伝えます。

それは武蔵で学んできた「自ら調べ自ら考える」「自調自考」の先に続く言葉は何なのかということなのです。

武蔵の三理想のうち、「自調自考」、自ら調べ自ら考えるは、三理想の中でも基盤にある理念だと思います。皆さんも在学中、何か疑問に思ったことを先生に聞いても、「それは自分で考えろ」と何度も言われたのではないかと思います。

自ら調べ自ら考える。現代社会では実は難しいことです。自分で考えるより、みんなにあわせておいた方がよい。そもそも、これだけ様々な情報、ある意味で玉石混交、フェイクニュースが流通、拡散する中で、自ら情報を調べ、取捨選択し、自分なりの判断軸をしっかり持つという武蔵で得た「自調自考」の精神や財産はこれから生きていくと思います。

しかし、「自調自考」で終わりなのか。それで終わってよいのか。その先には何があるのか。私は「自調自考」の先は、発言することも含め、自ら行動し、その行動した結果を自ら受け入れ、人のせいにするのではなく自ら責任をとる。いわば行動の「動」と責任の「責」をとった、「自動自責」があるのではないかと思います。

まず、「自動」についてですが、自ら行動することはリスクがあります。皆さんがこれから進む日本社会は、まだまだ同調圧力の強い社会、前例主義の強い社会だと思います。自分で考えたことを発言する、さらに行動に移す。そのことは時に周囲の批判や反発を招くというリスクがあるかもしれません。

もし自分の思考を停止して周囲に合わせるだけでは、波風は立たないかもしれませんが。でも批判を恐れている社会は変わりません。

特に、今我々が生きている世界はまさに先行き不透明。コロナ禍しかり、国際的な紛争しかり、気候変動しかり、そして14年前の3.11並びに福島原発事故もそうでした。想定を超えたグローバル規模での問題が起きます。問題は複雑に絡み合い、何が正解かはわかりません。

正解が簡単に見えないと、何もアクションを起こさないまま時間が過ぎさってしまいます。でもそれでは問題は解決できません。自ら動くことが必要です。

そしてもう一つの問題は、自ら動くことによって、そのアクションの結果、起きたことをどう受け入れ、責任を取るかということです。「自責」の問題です。

うまくいったときは問題ないでしょう。そのときは人々も賞賛してくれます。でもうまくいかないときもあります。そのときどうするか。

まず、結果をみて、「自分で失敗したな」というとき。そのときは潔く謝るのです。ごめんなさいと。私はある武蔵の先生がおっしゃっていたことに凄く共感したことがあります。その先生は、大学時代の恩師から言われた言葉として、「失敗を恐れるな。失敗しても、土下座して許されないことはないんだから」と。私も意図的に人の命を奪おうとするものでない限り、そのとおりでと思います。

後戻りしてもよいのです。失敗を認めて、潔く謝ることの大切さを覚えておいてください。

次に、「自分で失敗したとは思わない」ケース。自分の行動は正しいのに結果が出ない。それは自分のせいでなくて、周りの無理解のせいだと思う場合です。

そんなときは、そのまま信念をもって突き進むことも大事ですが、時に自分の考えや行動に固執することなく、主張しつつもさっと引く「柔軟性」も大事だと私は思います。巻きこまれながら巻き返す。相手の立場にシフトチェンジして物事を見してみる。その「柔軟性」から解決の糸口が見えてくることもよくあります。

自分に正義があると我をはる、いわば「原理主義的な考え」だと、人を批判・攻撃するだけになります。そこには対話が入る余地がありません。さらにそれは怒りへと転化していきます。他者への怒りは憎しみに変わり、その憎しみ、不寛容は争いへとつながっていきます。

ここ数年間、世界で起きている出来事に思いをいたすとき、「自調自考」とともに「自動自責」が、今の日本、そして世界でまさに問われているのではないかと私は思います。

ここにいる武蔵生が、武蔵だからこそ身に着けた「自調自考」の精神を生かし、将来向き合う様々な課題に対し、さらに自ら行動し自ら責任を取るというマインドを発揮し、そうした覚悟を持って、様々な分野で人とは違った独創性を発揮し、かつ自分とは違った他者をもリスペクトをもって受け入れる柔軟性・リベラリズムを発揮できたなら、日本は確実に変わり、世界も確実に変わっていくと私は思います。99期生の皆さん。君たちには自分の未来を創るとともに、よりよい社会を創ることが課せられています。どうぞ「自調自考」「自動自責」の精神で、たった一度の人生を思いのままに生きていってください。

最後にもう一つ。人生を生きていくうえで、私がいつも使っているおまじないの言葉を伝えます。人生は思い通りにならないことも多々あります。むしろ、結果が出ないことの方が多くでしょう。そんなときのおまじないの言葉です。

それは、おいあくまです。おいあくまは5つの人生の秘訣の頭文字です。おこるな、いばるな、あせるな、くさるな、まけるな。その頭文字で、おいあくま。この中には、来年度捲土重来を期している諸君もいるでしょう。私も50年前そうでした。おこるな、いばるな、あせるな、くさるな、まけるな。おいあくま。私から皆さんへのプレゼントです。苦しい時、思いだしてください。

結びに、本日参列いただいたご家族の皆様にご心より御礼を申し上げます。この6年間、本校の教育にご理解ご協力をいただき誠に有難うございました。至らない面も多々あったと思いますが、教職員一同、一生懸命取り組ませていただきました。この武蔵の環境で、多感な十代を過ごし、立派に成長した若者として、皆さま方の大切なご子息を本日お返しできたことを嬉しく思います。

本日をもって、武蔵とのご縁はいったん切れてしまいますが、今後とも末永くこの武蔵のことを暖かく見守っていただければと思います。本当にありがとうございました。

それでは、本日この武蔵を旅発つ99期生の前途洋々たる未来を心から祈り、私の式辞といたします。

2025年3月18日

武蔵高等学校中学校 校長 杉山 剛士

